

4年度大川村地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

大川村は急峻な地形で起伏地が多く、面的な基盤整備が困難なことから生産性も低く、農業経営上極めて不利な条件となっている。あわせて農業従事者の高齢化等により、担い手の不足と遊休農地の増加が問題となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

村内の約9ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、作物生産の維持・拡大を図ることとする。また、遊休農地等の活用については、「人・農地プラン」に位置づけられた担い手を中心に、規模拡大を希望する農家への農地の集積を推進する。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

耕作放棄地が増加傾向にある中、不作付地の発生抑制、解消対策として、水田の畑地化を推進していく。ブロックローテーション体系構築への取組については、主食用米を作付している水田はあるものの、小さい規模の水田が村内各所に点在しているため、圃場整備等が困難であり、転作には生産者の理解も必要であることから取組が難しい。しかし、ブロックローテーション体系の構築は生産者の収益性向上にも繋がるため、関係機関と連携をとりつつ前向きに検討していく。

4 作物ごとの取組方針等

（1）主食用米

中山間地域等直接支払制度の導入により、一部地域で荒廃地化に幾分かの歯止めをかけることができている。ヒノヒカリ、ソノタウルチ、ミネアサヒを中心に栽培されており、栽培のほとんどが自家消費米である。販売用の作付けについては高知県農業協同組合への委託販売を基本とするが、今後の需要動向を見ながら、他品目への転換等も検討していく。

（2）飼料作物

地域の畜産農家が自給的に作付けを行ってきたが、高齢化等の要因により年々作付けが困難になっている。今後も地域における飼料自給率向上のため栽培面積の確保に努める。また、担い手による作付けの推進により、生産性の向上を図る。

（3）高収益作物

野菜については、高知県農業協同組合を主な出荷先とし、その他直売所等への出荷も行われており、今後も地元産作物の生産拡大と地産地消を推進する。その他の作物（花卉・花木、果樹、雑穀、特用作物）についても水田の有効活用、地産地消を推進する観点から作付けの拡大を目指す。

5 作物ごとの作付予定面積等

別紙のとおり

6 課題解決に向けた取組及び目標

活用なし

7 産地交付金の活用方法の概要

活用なし

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1.51	0	2.35	0	2.35	0
備蓄米	0	0	0	0	0	0
飼料用米	0	0	0	0	0	0
米粉用米	0	0	0	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0	0	0	0
WCS用稲	0	0	0	0	0	0
加工用米	0	0	0	0	0	0
麦	0	0	0	0	0	0
大豆	0	0	0	0	0	0
飼料作物	0	0	0	0	0	0
・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0	0
そば	0	0	0	0	0	0
なたね	0	0	0	0	0	0
地力増進作物	0	0	0	0	0	0
高収益作物	0.04	0	0.13	0	0.13	0
・野菜	0	0	0.08	0	0.08	0
・花き・花木	0	0	0	0	0	0
・果樹	0.04	0	0.05	0	0.05	0
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0	0
その他	0.06	0	0.06	0	0.06	0
・クルミ	0.06	0	0.06	0	0.06	0
畑地化	0	0	0	0	0	0